



林 淳さん

はやし まこと

愛知学院大学文学部
宗教文化学科教授

1953年札幌生まれ。東京大学文学部、同大学院で宗教学を専攻。専門は、近世陰陽道と近代仏教。近世・近代の宗教史の叙述に関心をもつ。「近世陰陽道の研究」(吉川弘文館)、「天文方と陰陽道」(山川出版社)。共著として『ブッダの変貌』(法蔵館)、『修験道史入門』(岩田書院)、『シリーズ日本人と宗教』(春秋社)。

賀茂氏と比較すると劣勢でした。そのため晴明は長寿であったからです。晴明が活躍し始めるのは60歳を過ぎてから。安倍氏一族の長老となり、貴族としての位も高くなり、天皇や藤原道長のような権力者から重用されました。

もともと安倍氏は陰陽道を賀茂氏から学び、

—— 陰陽師の中でも、なぜ晴明が注目されてきたのでしょうか。

一つは、京都に地理的に近かったこと。晴明の伝説の中心はやはり京都です。二つには、1593(文禄3)年に豊臣秀吉が、京都などにいた陰陽師を集め強制的に尾張へ移住させたこと。荒地の開墾のためといわれています。三つに江戸時代、安倍家の末裔である土御門家による全国の陰陽師の支配が行われたこと。東海地方にも土御門家の配下はかなりおり、農閑期の出稼ぎでもあった三河万歳もそうで、万歳師は土御門家の配下になりました。

—— 晴明伝説は全国にありますが、東海地方は多い方だと思います。それには三つの要因が考えられます。

一つは、京都に地理的に近かったこと。晴明の伝説の中心はやはり京都です。二つには、1593(文禄3)年に豊臣秀吉が、京都などにいた陰陽師を集め強制的に尾張へ移住させたこと。荒地の開墾のためといわれています。三つに江戸時代、安倍家の末裔である土御門家による全国の陰陽師の支配が行われたこと。東海地方にも土御門家の配下はかなりおり、農閑期の出稼ぎでもあった三河万歳もそうで、万歳師は土御門家の配下になりました。

陰陽師・安倍晴明ゆかりの地が、なぜ東海地方に言い伝えられるのか。愛知学院大学文学部宗教文化学科教授の林淳さんに聞きました。

—— 平安時代、京都で活躍した安倍晴明。

なぜ東海地方にゆかりのスポットが存在するのでしょうか。

明の歿後子孫たちが上手に陰陽師安倍晴明をプロデュースすることで、ある種のレジェンドとなっていたのです。

—— その伝説は江戸時代に花開きますね。

林 江戸時代は印刷出版の文化が花開きました。一般庶民にも文字を読める人が多くなり、いろいろな本が出版されました。『安倍晴明物語』や『叢書抄』など、エンターテインメント性が高い物語がつけられました。

—— 歌舞伎の題材になり、近年は漫画や映画にも。晴明の何が人を惹きつけるのでしょうか。

林 江戸時代、印刷出版や歌舞伎、浄瑠璃などを通じて晴明の名前は全国に普及しました。そのような普及のもと、東海地方にも伝わる「マムシを退治」「火伏をした」という生活感のある伝説も生まれたのでしょう。平成の世では、小説、漫画、映画などの「メディアの力」によって晴明像が形成されました。晴明は謎めいた美青年のイメージが多いようですが、実際は高齢者のスターなのですが(笑)。

陰陽師は、晴明もそうですが、日時、方角の吉凶を占い、天体観測をするプロフェッショナル。どの貴族も、代々継承させていく家業、技能をもっており、陰陽道も、賀茂家、安倍家にとっては世襲の家業でした。

各地にあるスポットはメディアや宗教者によって伝播したもので、近年では聖地化したところも。言い伝えの面白さを感じますね。

陰陽道 おんようどう

律令制には、陰陽寮という役所があり、そこには天文、暦、漏刻、陰陽の四部門があった。天文は、天文を観測し天変があれば天皇に伝えた。暦は、毎年の暦をつくる。漏刻は、時刻をはかり鐘、鼓で時刻を知らせた。陰陽は、占い一般であった。